

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 6 年 5 月 23 日現在

機関番号： 3 2 6 8 9
研究種目： 奨励研究
研究期間： 2023 ~ 2023
課題番号： 2 3 H 0 5 0 6 2
研究課題名 民主主義社会を支える表現の自由をどう教えるか

研究代表者

羽田 真 (Hada, Makoto)

早稲田大学・本庄高等学院・高等学校教諭

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 320,000 円

研究成果の概要： 本研究では、公民科の学習指導要領及び検定教科書の分析を行った。これにより、表現の自由が「自由権」の項目で取り扱われるだけでなく、自由民主主義の維持にとって不可欠であることが理解できるよう配慮されていることが分かった。加えて、表現の自由を主題とした探究的な授業を考案した。一例として、政府が国民の行動を統制し、反政府的な動きを封じ込めるために表現の自由の制約が有効であること、一度規制されると回復が困難であることを理解させる授業などを実践した。また、法教育研究が盛んな韓国との比較も進めた。教科書等の資料を収集したほか、韓国の高等学校を訪問し、社会科の授業見学や、教員へのインタビューを行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

表現の自由には民主政の過程に不可欠という自己統治の価値がある。多数決を行うには少数意見を尊重し、十分な議論を経ることが必要である。また政府に対して批判をする権利も保障されなければならない。そのため、表現の自由の価値を理解し、表現の自由をめぐる日本社会の動きに対しての問題意識を涵養するための授業を開発することに意義がある。表現の自由への抑圧がますます加速するなか、公民科教育も変容する現実社会への対応を重視することが必要である。

研究分野： 公民科教育

キーワード： 表現の自由 公民科教育

1. 研究の目的

本研究の目的は、特に高等学校公民科で「民主主義社会を支える表現の自由をどう教えるか」について、その原理と具体的方法を明らかにし、実践を通じて検証することである。

表現の自由には民主政の過程に不可欠という自己統治の価値がある。多数決を行うには少数意見を尊重し、十分な議論を経ることが必要である。また政府に対して批判をする権利も保障されなければならない。そのために表現の自由は守られねばならず、特に行政権が国民の表現行為を規制することには慎重になるべきである。加えて、表現の自由は一度失われると回復が極めて困難な人権である。このように、表現の自由は民主主義社会を維持していくうえで重要な人権でありながら、高等学校公民科の授業では十分に扱われているとはいいがたく、憲法教育についても表現の自由に焦点を当てた先行研究は驚くほど少ない。

一方で、2019年の「表現の不自由展・その後」が脅迫や抗議を受けて中止に追い込まれた事件を発端に、「気に入らない／見たくない表現」への妨害行為や展示会場使用拒否などの問題が相次いで起きたことは記憶に新しい。これは現代日本において表現の自由の保障が危うい状況に追いやられていることを意味し、民主主義の根幹が揺らいでいることを象徴している。

そこで、表現の自由の価値を理解し、表現の自由をめぐる日本社会の動きに対しての問題意識を涵養するための授業を開発することの必要性が高まっている。新学習指導要領も法に関する教育を盛り込みながらその内容は限定的であり、また効果的な実践方法について具体的な提言に欠けている。表現の自由への抑圧がますます加速するなか、公民科教育も変容する現実社会への対応を重視することが必要である。

2. 研究成果

表現の自由をどう教えるかについて、関連諸分野の文献調査・研究を行いその原理の研究を進めた。加えて、新学習指導要領及び教科書の課題点を整理し、日韓の憲法教育・シチズンシップ教育等に関する先行研究の到達点をもとに具体的に検討した。韓国は近年法教育関連学会が設立されるなど法教育の研究が盛んであり、比較対象として有意であると分かった。また、世界における民主主義や表現規制の現状、国連の活動や人権条約にみられる「表現の自由」保障のグローバルスタンダードをふまえ、表現の自由にかかわる具体的な人権イシューに対する問題発見・解決のための提案を促すような「見方・考え方」の育成を目指し、指導案化することを目指した。

本研究では、実際に開発した指導案をもとに実践を通じて検証することを試みた。申請者が高等学校において担当している公民科の授業において、「表現の自由が制約された状況下で、権力に反対することや世論を動かすことが困難である」と理解するためのグループワークを行い、生徒の反応を記録した。

成果については全国民主主義教育研究会全国大会において発表し、討論を通じて今後の課題を整理した。表現の自由の自己統治の価値に加え、自己実現の価値の重要性をどうとらえ、理解させるかといった問題が残されている。

また、韓国社会科の教科書・授業分析についても現地調査などを行った。韓国の高等学校教師の協力により、研究の基礎となる日韓国際学術交流の実施を計画することもできた。そこで得られた成果をもとに、更なる研究を行いたいと考えている。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1．発表者名 羽田 真
2．発表標題 「表現の自由」をどう教えるか
3．学会等名 全国民主主義教育研究会第53回全国大会
4．発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------